

平成26年度 海外臨床薬学研修報告書

「アメリカの実際を見て感じたこと」

研修期間：平成26 年7月26日～8月10日

研修先：南カリフォルニア大学薬学部

薬学部薬学科 5年

100973347

長尾 真希子

7月26日から8月10日まで、南カリフォルニア大学（USC）の海外臨床薬学研修に参加させて頂きました。私がこの研修に参加しようと思ったきっかけは、日本の薬剤師の地位の低さを感じ、日本より薬剤師としての地位が確立されているアメリカの医療制度、薬剤師の姿を見て、日本との違いは何なのか学び、また日本よりレベルの高い薬剤師を目指す学生から刺激をもらって9月から始まる実務実習に臨もうと思ったためです。

研修は主に座学が中心でした。日本語で学んだ時はそれ程だった高血圧や糖尿病も、英語で学ぶとなるととても難しく感じました。また、今回の研修では韓国から2校、日本からは名城大学を含めて4校の学生が参加しており、その中でも韓国の学生のレベルの高さを感じました。授業では疾患の概要をUSCの学生が説明した後、10人程で構成されたグループに分かれて症例についてディスカッションを行ったり、Wincor先生の不眠症についての講座を聞いたりしました。

座学以外では、キャンパス内にある病院の薬局の見学をさせて頂きました。アメリカにはテクニシャンという職種があるため、日本と違って薬剤師は臨床に出て活躍する場面が多いという話は研修に参加する前から知っていましたが、実際に現場を見せて頂くと、ケモの調製をテクニシャンが行っていたりと、日本との違いを実際に目で見る事ができました。私は9月から実務実習が始まるため、日本の医療現場の実際についての知識はあまりありませんが、アメリカの薬局の調剤に関しては機械化がとても進んでいるように感じました。患者の処方情報をバーコード化して管理していたり、ハイテクな機械が必要な薬を小瓶に詰め、テクニシャンが蓋をするだけというような環境で、調剤室の薬剤師の必要性について考えさせられました。日本での薬剤師は、やはりまだまだ薬剤部に固まっているような印象がとても強いですが、アメリカのようにテクニシャンという職種ができる方が薬剤師としての力を臨床の場で発揮する場面が確実に多くなり、6年間大学で学んだ知識を生かしやすい環境になるのではないかと感じました。

研修で用意されたプログラムでは、実際に薬剤師が働いている場面を見る機会が少なく感じたため、授業のない時間を使ってホテルの近くにあるCVS PharmacyとサンタモニカにあるHARB薬局に見学に行きました。CVS Pharmacyはアメリカ国内で一般的なドラッグストアで、研修中に街中で何度も見かけました。私たちが実際に訪れた店舗はオフィス街にあるため、年齢層は30、40代が多く、一日の処方箋枚数は平均して75枚程だそうです。日本では薬剤師1人が一日に取り扱って良い処方箋枚数は40枚ですが、この店舗ではアメリカで一般的なテクニシャンが不在している上に薬剤師1人で75枚もの処方箋を扱っているということでした。日本で薬局を経営している父の姿を見る限り、一日に40枚もの処方箋を取り扱うだけで大変であるにも関わらず、この店舗にいた薬剤師の女性は75枚の処方箋枚数は少なく、まるで暇であるかのような発言をしていたのが印象的でした。他の店舗では薬剤師2人、テクニシャン4人の構成が一般的で、一日に4、500枚の処方箋を取り扱っているとのことで、まるで門前薬局のような印象を受けました。処方箋の取り扱

いだけでなく、ワクチン接種や血圧測定なども薬剤師が行っているため、アメリカの薬局薬剤師の仕事の多さに驚かされました。日本のように国民皆保険制度がなく、リフィル処方制度があるアメリカでは、薬局薬剤師の需要が大きいと感じました。また、処方箋薬と OTC 薬の扱いは完全に分かれており、薬剤師は処方箋薬の取り扱いのみに関与し、OTC 薬は特に資格を持たない一般の人が対応していました。日本では薬剤師か登録販売者しか OTC 薬の販売はできませんが、アメリカではまるでハンバーガーを販売するのと同様の感覚で OTC 薬も販売していると聞き、本当に大丈夫なのかな、と不安に思いましたが、セルフメディケーションの意識が高いアメリカだからこそ、特に資格を持たない一般の人でも、ある程度の知識を持っており、服薬の仕方も丁寧に教えてくれたことにとっても驚きました。HARB 薬局は一般的なドラッグストアとは違い、ハーブやサプリメントの取り扱いが多い薬局です。アメリカでは予防医学の意識が高く、サプリメントなどで日頃から不足する栄養素を補ったりして病気にならないようにする意識が高いようでした。特にカルシウムのサプリメントが多く、話を伺った店員も服用していると言っていました。日本では少し体調が悪くなってもすぐ診療所に行って、少ない費用で処方箋薬をもらうことができますが、アメリカは国民皆保険ではないため病院にかからなくても良いように日頃から自分の体調管理にとっても気を使っていることが分かりましたが、一度に服用するサプリメントの量が多いように感じました。体格の差などから服用量は変わると思いますが、カプセル剤なども日本の倍近い大きさがあり、服用する際に喉にひっかかってしまうのではないかと思う程でした。また、処方箋薬などは副作用などもあってあまり良い印象を持っていないようでしたが、私たち日本人からするとサプリメントにばかり頼りすぎるのは良くなく、大量のサプリメントで逆に体調を崩すのではないかと疑問に思う点多々ありました。

まとめとして、日本とアメリカでは、まず国民の健康に対する意識から違いがあり、日本人はもっとセルフメディケーションの考えを推進して薬局薬剤師を頼るべきだと思いましたが、病院においても薬剤師がもっと調剤業務から離れて臨床に出る機会を増やすべきだと感じました。しかし、セルフメディケーションの意識の高まりとともに、サプリメントに依存するアメリカの国民性にはやや疑問を感じ、また、街中を見て感じた貧富の差などから国民皆保険制度がある日本の良さを実感しました。

今回の研修を通して、日本とアメリカの違いを学べただけでなく、同じ薬学生として他大学の学生やアメリカ、韓国の学生との交流もでき、本当に充実した 2 週間を過ごすことができました。このような機会に恵まれたことに心から感謝致します。また、アメリカで学んできたことをもとに、9 月からの実務実習に臨み、日本の医療の実際を見て学びを深めたいと思います。